

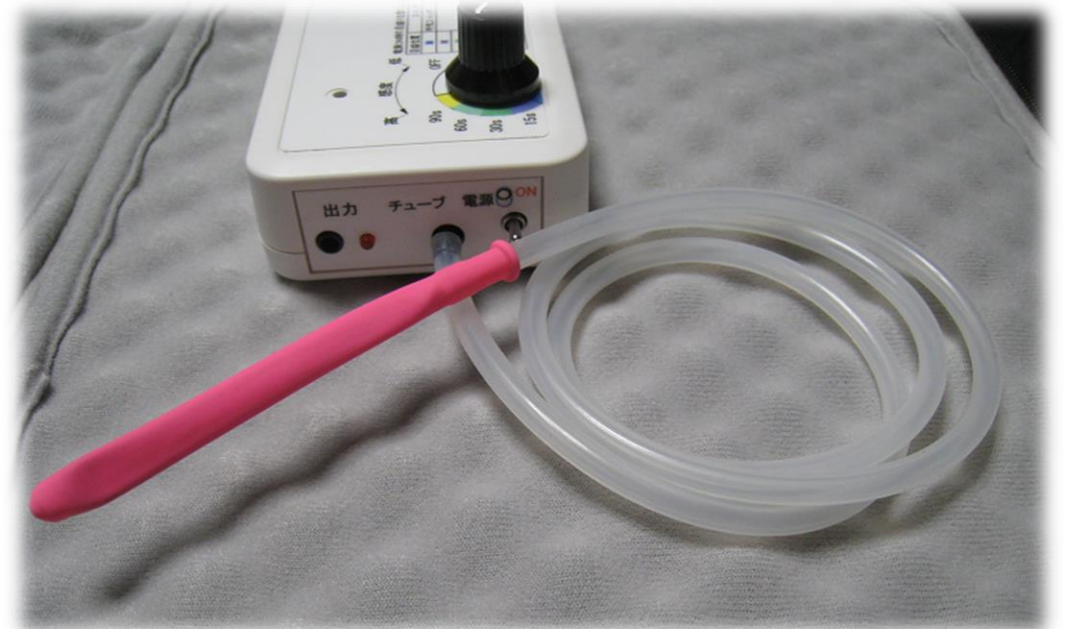
空気圧センサースイッチ(感度調整付)



標準構成

- ・圧力センサー: MPX2010-GP
- ・使用電池: 9V 006P
連続使用時間15~20時間
- ・AC100V⇒DC6V,9Vアダプタ使用可能
- ・サイズ: 69×48×115(つまみ部含む)

- ・呼気スイッチをベースとしていますが、更に感度を上げてあります。
- ・チューブの先にエアバッグセンサなどを接続することでタッチスイッチ感覚で使用することができます。



1. 使用法

- ①センサー部のシリコンチューブと出力ジャックに延長コード(両側ともプラグのもの)を取付けます。
- ②つまみを回して機能を決めます
- ③電源スイッチをONにします。
※つまみの位置と、機能の関係は、ケース上面に表示してあります。
詳細は、次ページを参照してください。
- ④空気圧センサースイッチとして動作の場合、センサー部に触れながら、感度調整を行います。
(センサー部に触れていない時LEDがOFF、想定した力で触れた時ONとなるよう、つまみを調整)
完了したら、延長コードのもう一方を操作したいもの(おもちゃなど)に接続します。
- ⑤圧力がかかって(または、息を吐く、吸うして)いる間、動作LEDが点灯、スイッチがオンになりおもちゃなどが動きます。

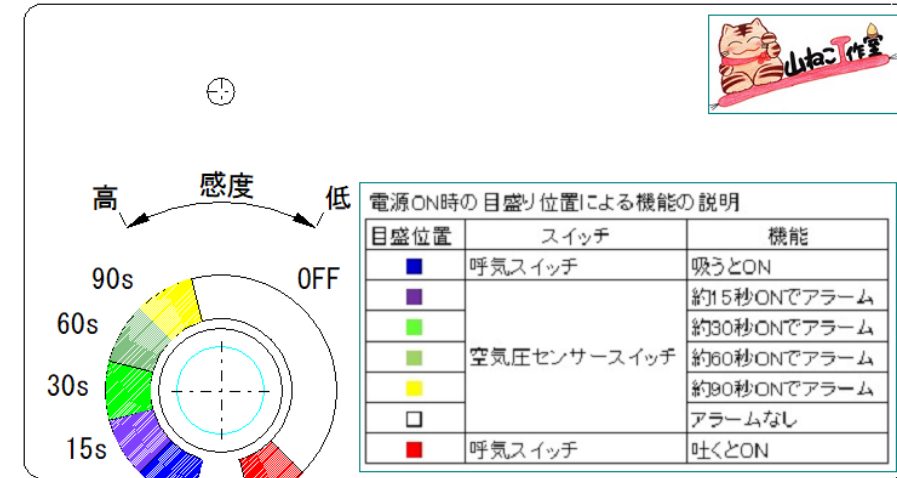
2. 使用上の注意点

- ・出力(ジャック)は、フォトMOSリレーによる無電圧接点となっています。
- ・ON時の抵抗が0.3Ω程度あります。
- ・流せる電流は最大2Aです。機械式のリレーと異なり最大電流を超えると短時間で壊れます。
2Aを超える電流の流れる回路をON/OFFする場合は、別途リレー等を介して制御してください。
※付属の延長コードは、0.5A程度(単3電池4本程度で動くモータのON/OFF)までに抑えてください。
それ以上の場合は、銅線の太い延長コードを使用してください。
- ・延長コードは、ステレオのものですが、通常のモノラルプラグと同じに使えます。

電源をONするときの、つまみの白線の位置で、機能が変わります。

つまみの位置、8時から10時あたりで、電源をONにした場合、圧力センサーに触っていないなくても出力はONになりますので、つまみを右方向に回して感度調整を行ってから、操作するものをつないでください。

1. 左に回し切った状態で(短針7時の位置)スイッチON
ピッ・ピッと短く2回鳴ります。「吸うとNOする呼気スイッチ」になります。感度は固定です。
2. 右に回し切った状態で(短針5時の位置)スイッチON
ピッ・ピッ・ピッと短く3回鳴ります。「吹くとNOする呼気スイッチ」になります。感度は固定です。
3. 8時から12時を経て4時の間でスイッチON
圧力センサーへの加圧で(または吹く)NOするスイッチになります。感度の調整ができます。



8時～11時の位置でスイッチONすると、アラーム機能がONとなります。
ピッ・ピーツと鳴ったあとの、ボリュームの位置により、アラームまでの時間が変化します。
12時から4時位置でNOすると、ピッと1回だけ鳴りアラーム機能はOFFとなります。

8時～11時の位置でスイッチONした時の、アラームまでの時間(大体の時間です)は、以下のようになります。

- (1)8時:ピッ・ピーツのあと、ピッ1回、アラームまでの時間は15秒です。
- (2)9時:ピッ・ピーツのあと、ピッ2回、アラームまでの時間は30秒です。
- (3)10時:ピッ・ピーツのあと、ピッ3回、アラームまでの時間は60秒(1分)です。
- (4)11時:ピッ・ピーツのあと、ピッ4回、アラームまでの時間は90秒(1.5分)です。

アラームは、約20秒鳴ります。その間何もしないと、一旦停止後、指定時間が経過すると、再び鳴り出します。
その間にボリュームで感度調整すると、その時点でアラーム音は消えます。

※使用しているボリュームと、つまみの相性などもあり、機能設定時は、当該エリアの中心より右側(次のエリアに近い方)の位置に回したほうが、設定の認識が良い場合があります。

※アラーム機能は、圧力センサー内の空気が膨張してスイッチの出力が入りっぱなしになっていることを知らせる機能です。